檔　　號：
保存年限：

南臺科技大學　函

地址：台南市永康區南臺街一號
承辦人：黃心瑜
電話：(06)2533131#6301
傳真：06-3010007
電子信箱：jap@mail.stust.edu.tw

受文者：國立嘉義大學　研發處　批：一、e-mail人藝院、通識中心。
二、於研發處網頁公告。

發文日期：中華民國102年10月21日
發文字號：南科大日字第1020011410號
速別：普通件
密等及解密條件或保密期限：
附件：如文（102114101_0011410A00_ATTCH1.DOC、
102114101_0011410A00_ATTCH2.DOC、
102114101_0011410A00_ATTCH3.JPG，共3個電子檔案）

組長楊弘道 1022/1720

決代行爲

教授兼研究發展處研發長林翰謙 1022/1720

主旨：本校訂於2013年10月26日(星期六)辦理〈回顧與展望日本帝國統治下的國語教育與戰後的日語教育〉國際學術研討會，請　惠予公告周知，並請　惠予參加人員公差假，請　查照。

說明：

一、本研討會旨在探討與展望「大日本帝國」於殖民地的教育政策，以臺灣、朝鮮、滿洲國的日語教育為主題。邀請來自日本、韓國等地的專家學者從國際觀點進行學術交流活動。

二、時間：2013年10月26日(六)，上午9時至下午17時30分。

三、地點：本校國際會議廳　(圖書館十三樓)。

四、檢附本次研討會議程表、邀請函及報名表，敬請　參酌。

五、相關資訊請上網至應用日語系查詢http://japan.stust.edu.tw/。

六、相關問題，請洽業務承辦人：黃心瑜。

七、聯絡電話：06-2533131　分機：6301　電子郵件：jap@mail.stust.edu.tw。

正本：公私立大專校院

電子公文

副本：本校應用日語系

102/10/21
16:06:14

裝

訂

線

報 名 表

請依您的情形，勾選以下選項，並請於今年 10 月 23 日（星期三）以前以傳真、電話、E-Mail 方式回覆，再次感謝您的配合，謝謝。

服務單位：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　姓　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

聯絡電話：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　E-Mail：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◆午餐：　□需要（□素食，□葷食）　　□不需要

◆晚宴：　□需要（□素食，□葷食）　　□不需要
（參加交流晚宴者需自付 NT$300 元整，請於報名時填寫並繳交。）

◆其他：當日回程需搭乘計程車者，請告知報到處(將代為預約計程車)。

【 聯 絡 處】710　臺南市永康區南臺街 1 號　南臺科技大學人文社會學院應用日語系（所）　國際學術研討會籌備委員會
【聯絡電話】(06) 253-3131 分機 6301　／　【傳真號碼】:(06) 301-0007
【 E-Mail】jap@mail.stust.edu.tw
【 聯 絡 人】：黃心瑜（應用日語系助教）

申 込 表

参加ご希望の方は、以下に必要事項をご記入の上、10 月 23 日(水曜日)までに、ファックス・電話・E-Mail いずれかの方法で下記連絡先までご一報くださるよう、お願い申し上げます。

ご所属:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　お名前:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電　話:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　E-Mail:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

◆ 昼　食: □必要(□菜食　□肉食)　　□不要

◆ 懇親会: □参加(□菜食　□肉食)　　□不参加
(懇親会参加ご希望の方はシンポジウム当日、受付にて参加費用 NT$300 を納入してください。)

【連　絡　先　】710 台南市永康区南台街 1 号　南台科技大學人文社會學院應用日語系（所）　国際学術シンポジウム運営委員会
【電　　話 】(06)253-3131 分機 6301　／　【ファックス】(06)301-0007
【 E-Mail　】jap@mail.stust.edu.tw
【連 絡 担 当 】黄心瑜（応用日語系助教）

※ 中文版或日文版填寫其一即可。

※ 中文版、日文版、いずれかにご記入頂ければ、けっこうです。

邀　請　函

敬啓者

本系誠摯邀請您參加 2013 年 10 月 26 日(星期六)，南臺科技大學人文社會學院應用日語系(所)主辦〈回顧與展望日本帝國統治下的國語教育與戰後的日語教育〉國際學術研討會。敬請前來共襄盛舉。

【會議名稱】南臺科技大學人文社會學院應用日語系(所) 2013 年國際學術研討會
【主　　題】回顧與展望日本帝國統治下的國語教育與戰後的日語教育
【宗　　旨】請參考附件「國際會議舉辦目的」(日文) 之說明。
【主辦單位】南臺科技大學人文社會學院應用日語系(所)
【協辦單位】植民地文化學會 (日本)
【地　　點】南臺科技大學國際會議廳 (臺南市永康區南臺街 1 號　E 棟 13 樓)
※　交通資訊請參閱 http://www.stust.edu.tw/about_html/traffic_2.html
※　國際學術研討會在本校圖書館舉行，會場場所請參閱 http://www.stust.edu.tw/about_html/stutmap.html，地圖中標示「E」爲本校圖書館。
【時　　間】2013 年 10 月 26 日(星期六)
【餐　　費】參加交流晚宴者需自付 NT$300 元整，請於研討會當日於報名處填寫並繳交。

耑此邀請，順頌
時祺

南臺科技大學人文社會學院應用日語系(所)主任　鄧美華
2013 年 10 月 18 日

※　參與研討會者將發予研習證明書。
※　當天開車到本校者，敬請攜帶本邀請函，謝謝您的協助。

ご 案 内

謹啓　時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。
さて、今度の 10 月 26 日(土曜日)、弊学科主催の国際学術シンポジウムを開催いたします。ご多忙のところ恐縮でございますが、万障お繰り合わせの上、ご参加くだされば幸いに存じます。
まずは略儀ながら、書中にてご案内申し上げます。

謹白

2013 年 10 月 18 日

南台科技大学應用日語系(所)主任　鄧美華

記

【名　称】南台科技大学人文社会学院応用日語系(所)2013 年国際学術シンポジウム
【テーマ】「帝国」における国語教育と戦後日本語教育－旧植民地・占領地教育の過去・現在・未来－
【開催目的と意義】別紙「シンポジウム開催主旨」(附件「國際會議舉辦目的」)をご参照ください。
【主　催】南台科技大学人文社会学院応用日語系(所)
【協　力】植民地文化学会(日本)
【会　場】南台科技大学　国際会議室(台南市永康区南台街 1 号E棟 13 階)
※　当大学までの交通については、以下をご覧ください。(http://www.stust.edu.tw/about_html/traffic_2.html)
※　シンポジウム会場となる国際会議室は、本校の E 棟(圖書館) 内にございます。
(http://www.stust.edu.tw/about_html/stutmap.html 掲載の地図において、「E」と表示されている場所です。)
【日　程】2013 年 10 月 26 日(土曜日)
【懇親会費用】懇親会参加ご希望の方はシンポジウム当日、受付にて参加費用 NT$300 を納入してください。
※　シンポジウムに参加頂いた方には、参加証明書を発行いたします。
※　当日、お車でいらっしゃる方は、大学に入る際、門の係員に本案内状をお見せください。

以上

附件 「國際會議舉辦目的」（別紙 「シンポジウム開催主旨」）

南台科技大学人文社会学院応用日語系(所)2013年国際学術シンポジウム

「帝国」における国語教育と戦後日本語教育－旧植民地・占領地教育の過去・現在・未来－

【開催趣旨】

「大日本帝国」とは、1890年に施行された大日本帝国憲法に始まる国号である。以降、1947年発布の日本国憲法によってこの国号が撤廃されるまでの57年間、帝国は存在した。この間に、帝国は西欧列強の文明を急進的に取り入れ、「脱亜入欧」をスローガンに富国強兵に努めた。そうして近代化された帝国は、植民地主義の蔓延する国際情勢の下で、列強に追いつくべく積極的に国土拡張政策を取った。「外地」と「内地」という概念が生じ、「外地」には日本人として生きることを余儀なくされた人々が生まれた。

帝国が存続した期間は、日本語史上の画期でもあった。「国語」が創出され、統一されていくことにより、内地で話されていた種々の地方語は「方言」とされた。一方、外地に住む本来は日本語を母語としない人たちも「国語」として日本語を学ぶことを余儀なくされた。

やがて敗戦によって帝国は崩壊し、旧植民地・占領地だった地域はそれぞれの運命を辿る。ある地域は独立し、ある地域は他の国へ吸収され、ある地域は委任統治領となった。それにともなって、当該地域に生きる人々の言語生活もそれぞれに変遷を遂げた。

国民国家形成の要件である「国語」は、本質的に時の教育政策と密接に結びつく。本シンポジウムの目的の一は、日本が海外への拡張政策を取っていたこの時期に、それぞれの統治・占領地域で実施されていた国語教育政策の実情を考察することにある。その際、実際に教育が行われた「場」に目を配ったうえで、学校教育のみならず、社会教育として行われていた国語教育をも視野に入れたい。

目的の二は、日本の統治・占領地政策の終了後、当該国家・地域で行なわれている現代の日本語教育を考察することにある。これらの地域は地理的に日本に近く、現代においても、政治的経済的な観点から、かつて「国語」であった日本語を、外国語として学ばなければいけない立場にある。そのことを前提にしたとき、それぞれの国・地域の民族性や風俗文化、歴史的背景、政治情勢などの諸要因によって生ずる地域差を視野に入れて、どのような日本語教育が可能になるだろうか。

今回のシンポジウムでは、以上の見地から在外日本語教育の歴史をふり返り、現状の省察と将来の展望の一助になることを期待する。

対象となる地域は、以下の五つである。

1.（旧）外地　　2.（旧）租借地　　3.（旧）委任統治領

4.（旧）間接統治領　　5.（旧）第二次世界大戦時占領地